

# 参与会議・海洋プラスチックごみ対策PT中間報告(案)の概要

## PT設置の目的

第3期海洋基本計画に沿って、海洋ごみ対策、並びに海洋ごみ問題にも対応した沿岸域の総合的管理に取り組んでいく必要。

一方、2019年6月のG20大阪に向けて「プラスチック資源循環戦略」の策定や「海岸漂着物対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針」の改定を予定。

このため、今後の海洋プラスチックごみ対策等に係る施策の具体化に向けて、参与会議として意見し、海洋基本計画の総合的かつ計画的な推進を図る。また、中間報告を取りまとめ、関係府省における速やかな施策の検討・具体化を促す。

## 海洋プラスチックごみ問題に関する基本的認識

世界的なプラスチック類の使用及び海洋への流出の増大

- ・ 東アジア等からの流出が大
- ・ 日本も経済発展の中で使用が増大し、その一部は海洋に流出

プラスチック類を含む海洋ごみは、景観の悪化、海岸機能の低下、ゴーストフィッシング等を含めた生態系への影響など、様々な問題を惹起

マイクロプラスチックによる環境影響や化学汚染物質の吸着・食物連鎖への懸念

資源循環や廃棄物処理に努めているが一定の海洋流出は回避し難い現実

- ・ 放置等によるごみの散乱・流出
- ・ ポイ捨てや不法投棄
- ・ 自然災害や不可抗力、経時的劣化に伴う非意図的流出

- ◆ 海洋全体に拡散し、様々な影響を及ぼす海洋プラスチックごみは世界的な課題
- ◆ 主たる発生要因は社会経済活動に伴うものであり、国民の理解と協力が不可欠

国民の理解と多様な主体の参画の下、海洋への流出による海洋プラスチックごみの発生抑制に努めつつ、一旦流出してしまった海洋プラスチックごみを効果的に回収処理することを基本に施策を展開する必要があるとした上で、推進・強化すべき取組として、以下の4項目に言及

### 1. 施策推進の基盤となる科学的知見の充実の推進等

- 環境に配慮したライフスタイルや企業活動等の参考となるよう、海洋プラスチックごみの発生過程、種類や数量、影響などについて、分かり易い形で情報提供する海洋プラスチックごみ問題の「見える化」を推進
- 調査研究に携わる研究者・専門家を交え、調査内容・手法や実施体制について情報を共有し、相互に調整が図れるような場づくりを実施
- 予防的アプローチ及び順応的管理の考え方を取り入れて取組を推進

### 3. イノベーションを通じた海洋プラスチックごみ問題への対応

- プラスチック類の使用の合理化等を通じて、持続可能な社会経済システムの構築の実現に向けた企業等の努力を的確に評価し、その実現に向けた取組を支援
- 生分解性プラスチックの実用化に向けた研究開発の推進、企業等の積極的な取組を促すような環境づくり
- 資源循環や廃棄物処理、更に環境への影響等も含め総合的に評価しつつ、製品設計を行う「ライフサイクルアプローチ」を推進

### 2. 沿岸域の総合的管理の一環として海洋環境保全活動の推進

- 海岸清掃活動等に関わる民間団体、企業等からの相談や照会に対応する窓口を都道府県・市町村に設置
- 海岸清掃活動への参加によって関心の高まりや理解の増進が図られることを再認識し、国や地方自治体が、自らが行う事業との連携や情報提供等を通じて活動支援
- 沿岸域の総合的管理の一環としての海洋ごみ問題への取組の推進
  - ・ 先進的なモデル事例の構築、現場に即したガイドラインの取りまとめ 及び 全国的な普及
  - ・ 各地の課題に対応したモデル事例の構築の推進、法律や予算措置等に基づく諸活動との連携等
  - ・ 優良な取組事例を推奨して行く方策を検討し、全国的に展開する枠組みを構築

### 4. 海洋プラスチックごみ対策の効果的な推進

- 戦略的な数値目標等を掲げ、関係者間での取組の内容や成果を共有することにより取組を推進
- 地球規模での調査研究や人材育成などの国際連携・協力の推進、国際的な枠組み構築への貢献
- 参与会議における工程管理を通じて、取組状況の把握、取組内容の改善等についてフォローする